に『余の心は兒童の上にあり彼等の幸福は余の幸福にして彼等の喜は亦余の喜なり……余は朝夕常に彼等と共にあり彼等の心身の慰藉は一として余の手を經ざるものなく凡ての補助凡ての教育一として直接に余の手を下したるたるものならざるはなし……余は常に彼等と共に泣き彼等と共に笑ひ食は相推し飲は相分つ彼等は世界を離れスタンツを離れて余と共にあり余また一人の友人なく家僕なく唯彼等と共にあり彼等の健康なる時は余はその間に交りて談笑し病める時はその側を離れずして看護にあたる朝は最も早く起き夜は最も遲く彼等の間に眠りその眠り終るまで祈り且教へたりし遂に彼等は余に不正あるを感ずるも之が爲に却て益〻余を愛するにいたれり』あゝかれは愛の化身なる精神的教育者にはあらざりしか教育界千古の偉人にはあらざるかかゝる精神的教育者によりてこそ眞の人物はつくらるゝなれすなはちかゝる人物は永へに生きわれらを感化し導くにはあらざるかあゝ精神的教育者は千歳に生き得る理想の人をつくる神なりと呼ぶもすぎたる言にはあらざるべし彼の山鹿素行の感化は四十七義士の永世となり吉田松蔭の感化となりかくしてつひに乃木大將の永世を見たり思はざるべけんや。

今やわが教育者は舊來の弊に感じ自ら覺れるもの漸く數をまし來れり願くはわれらが世に出でむころはわれが道を行ふに易からんことを

## 都市形式の研究（講演）

文科二部四年

都市の形式について申しますに當りまして先づ人類が都市を經營いたします前にさかのぼり少し申したいと思ひます、凡そ人類は次第に進歩するに從つて狩獵民または遊牧民の生活狀態から一歩進んで簡易な農業を營む樣になり次第に發達して正式農業をなす樣に移りゆくので御座いますがか樣に農業をなす樣になりますと農業の性質から土着する必要が起つてくるので御座います土着と申しますと家屋を造り一定の住所に永住する事をいふのでありますが其土着の初めは三々五々只群をなして集るにすぎませんので所謂散在地をなすので御座いますが年月の經過と人口の增加とに從ひまして其等散在地相互の間に



交通が起り次第に道路が出來て村落をなすのでありますが村落の形は山や川の自然地理的影響によりまして其形はそれぞれ異るので御座いますが最普通なものは道路の兩側に家がならぶ形式即ち街村となるのであります、それが次第に發達して道路が縱橫に通じ人家が多くならびます時市街地となるのでありますがそれまでには色々な影響で左右せられまして一樣な發達をいたすものではありません。其主なるものを大別して自然地理的影響と人文地理的影響との二つに分つて申しあげます。

### A 自然地理的影響

氣候が溫和で其上に建築用の材木石材等に富み土地か肥沃であるといふ事は住所選定の諸條件でありますけれども亞細亞内地のステップ地方や沙漠地方では斯樣な條件を備へて居りませんので此處に住む人は遊牧の民であつて革張りの天幕を以て住家にかへ水草を追つて轉々するので其住所も永久固定のものになる事が出來ません又極地方へ行く時は氷が最も便利な建築材となつてエスキモーは此氷の家に住んで居るのでありますが住所撰定には何不足もない溫帶地方におきましても山地であるとか海邊であるとか又は降水量の多少等種々の關係から集落の形もいろ〳〵のものが出來るのでございます。

### B 人文地理的影響

其土地の種族の風俗習慣の上から又各種獨特の趣味の上からいろ〳〵な形のものが出來るのでありますし且社會的方面政治的の方面から考へると之等自動的の變化ばかりでなく更に他動的の原因によつて都市の形に種々な影響を及ぼすものでありますが例へば近傍の地に優等な種族が居住して居ります時は其種族が開化を傳へるので市區の制も之に倣つて幾分變つてくるのでありますまた或は其等優等種族に强迫されて其土地を侵される憂ひもあるので自ら防禦するといふ考も起る爲に生活に便利な地をすてゝ崖の上とか谷の間とかに市邑を營むといふ事になるので御座います。更にまた城砦を設けて市邑を保護するといふ樣な事もするのであります。市邑の形は之等自然人事兩方面の影響をうけて各地特有の形をなす樣になつたのでありますそれで先づ日本民族の經營した都市の形式に就て考へて見たいと思ひます。

都市は民族的生活の中樞でありまた渦心でありますから人文史的に都市の發達を研究するのは趣味ある問題であります。それで此所も人文史的區分に從ひまして歴史上其形式を明記してある藤原宮から始め平城恭仁宮長岡宮平安鎌倉江戸東京を都市の代表として其美的形式の方面を見やうと思ひます。

神武天皇の橿原の宮から持統天皇の藤原宮迄四十二代の間に四十餘度の遷都がありました其理由が清潔を尊ぶといふ日本民族固有の根本的精神から出で居りますのは面白い現象で御座いますけれどもこれは別としてかくの如き思想感情の爲に都市の永久的經營といふ事は起らなかたので御座います。そして溪流にそひ若しくは森林の中に茅葺木造の極めて素朴な家屋が散點して居る村落であつたので遷都といつても平城より平安平安より東京へといふ樣な大規模なものではなかつたので御座います先づ藤原宮から申します。

持統天皇が都を大和國高市郡に定められました藤原宮に至りまして朱雀大路皇城門のあつた事が略推想されるのであります。記錄が乏しい爲に其規模區劃を明にする事は出來ませんが此都の形式は平城に於てやゝ完備して居ります。

元明天皇の和銅三年に此所に遷らせられましたが其形式は大体前からあつたものに倣ひまして經營せられたものと考へられます。其形式と致しましては眞中に廣い道を開いて左右にシンメトリカルに街衢を整齊たらしむるといふ方式が最も美しき形式として行はれた事が認められるのであります。其規模は東西三十二町南北三十八町の長方形であつて其兩面の比は4:45の比を示して居るのであります。其中央の朱雀大路によつて左右の兩京に分ち更に南北は九條に分かれ朱雀大路に臨んで宮城が設けられました。右左の兩京はおの〳〵坊に分ち大路に近い方から一坊大路二坊大路とよび四坊大路に至るのでございます。平城の舊都につきましては色々の研究がありまして未だ決定して居らぬ所もありますが先づ大体現今の奈良市はもとの平城京の東端にありまして其西の方は富の緒川に至り北は佐紀から南は郡山に至る間の長方形であつた事は認められて居ります。そして今の轉害門のあります通りは元の一條通りでステ



ーションのあります三條通りはやはりもとの三條通りにあたるさうで御座います。今も大極殿の跡は儼として農夫の鋤鍬を入れられず殘つて居ます。郡山の東方には羅城門の跡かありますがこれは皇城の朱雀門に對する門であつたので御座います。平城時代の佛教隆盛の時に構へられました西大寺唐招提寺藥師寺の大伽藍は右京の西の方にありかの法華寺は大極殿の東七丁許りにございます。左京に建られた大安寺も七大寺の一でありましたが今は僅かに小堂か遺趾に設けられてゐるにすぎません。北の方は伏見京都で郡山の西南に法隆寺があります。少し話しが横道に入りましたが先にのべました如くこの平城の都の形のよく整つて居りますのは自然の發達にのみよるのでは御座いません。隋唐の交通の結果唐制に倣つた所が多いのであります。然し其實施に當りましては國情に照し地勢を考へ餘程改良を加へたものが多くて却て支那におけるものより秩序の整頓した所があつたので御座います。是は蓋し隋唐交通時代に於ける邦人の時代思想が事物の規律正しきを喜ぶ結果であります。此平城及後に申します平安の二京は主として長安制によつた所が多いのでありますが聖武天皇の大和に定められました恭仁宮は其地理自然の類似からして洛陽制を採用せられたものが多いのであります。

其恭仁宮の形は東西に長く南北に短い事は平城平安と反對で御座いますそれは地勢上の關係からでありまして木津川泉川は其地を東西に流れてかの洛水の都を南京北京に分つてゐるのと同しで御座います。猶宮城の左京に偏する事も洛陽によく似てゐるので御座います。

次に桓武天皇の營まれました長岡宮について一寸申します。此宮も平城京の樣に朱雀大路によつて京を左右に分たれた事は明らかでありますが催馬樂の歌曲の中に編入せられて居る「新宮朱雀の垂柳」の歌によつて見ますと今日見られる道路樹は既に此頃から始まつて居つたものと思はれるので御座います。

此長岡宮から桓武天皇は延暦十三年から廿四年に亘つて御造營になつた平安京に遷都せられました。其平安京の地勢は四神相應といひまして尤も要害の地となつて居ります。四神といふのは天の四方の星の象

で即東は青龍西は白虎北は玄武南は朱雀といひましてまた地相の此天相に相應するを四神相應といひます。左りに流水あるを左青龍といひ右に長道あるを右白虎といひ南に汗地あるを前朱雀といひ北に丘陵あるを後玄武といひ斯様な地を最も要害の地とするので御座います。今之を平安京にあてはめて見ますと鴨川は左青龍にあたり北の比叡鞍馬の連山は後玄武にあたり西の道路は右白虎にあたり南の烏羽伏見は前朱雀にあたるのであります。斯様に自然に要害の地でありますから此地を都と定められましたものと思ひます。其中央に東西千五百〇八丈南北千七百五十三丈の長方形の區域を定められました。其東西南北のプロポーションも大体平安の都制のプロポーションと似てよき比を保つて居ます。其中央に廣さ廿八丈の朱雀大路を開いて大内裏の朱雀門から城南の羅城門に亘つて全部を左右兩京に分つた事は平城京に同じでありますが前にのべた如く唐の制によつた都制の中て長方形をなし中央の大路を標準として左右シンメトリカルの美觀を保つといふ方式の最完備したものといはれて居ります。現今の京都市が大体に於て正しく縱横に通する道路の存するは舊時の遺影によるのでおざいますもとの平安京と比較して見ますと余程もとよりは東の方か發展して鴨川は市の東を流れてゐましたものが今は市中を流れる事となつて居ります此鴨川の東は東山で市の北の方は北山といつて北野金閣寺などがあります。以上は平安京の大体で御座いますが之は東洋都市の形式としてシンメリーの美觀を保つたものゝ代表的形式でございます。然るに斯様な都制の根本的思想が平安城の經營を尤後としてこれからは漸々破壞されて行く樣になりました。其主なる原因は天災地變の樣な止むを得ない出來事もありますが其外福原遷都とか白河院の白河離宮の御造營とか平氏の六波羅を置いた事等の政治上の關係から或時は中央かさびれて白河がさかえ或時は東北隅が繁昌して遂に左右兩京の都制は變じて上下兩京となりなどして次第にもとの形式を失ふに至つたのであります。其後色々の變遷を經て政治上の中樞は關東に移る事となりました。次に鎌倉から述べる事といたします。

鎌倉は三期層の斜面地であつて、東、北、西は嶮



しい山脈で幾重にも取圍まれて居ります、其内、東、東南の方面は、山が高く、西と西北との山は稍低いのであります。それで南の一面が相模灘に臨んで居ります、これが所謂由井が濱で御座います。この樣に三面が山に圍まれて一ケ所とても外に通ずる谷がないので、昔は山を切つて通路を開き、之を通行し、いざ戰となれば柵を結び逆茂木等を並べて、防禦したものであつて、其口が七ッありますので、鎌倉七口とか七切通とかいふのであります、西から順次申しますれば、極樂寺坂、大佛坂、假粧坂、龜ケ谷坂、巨福呂坂、朝比奈切通、名越坂等であります。

其町は奈良や京都の樣に平原でなく、山ふところに發達して多くの谷から成立つて居りますので、都會的設備を爲すには誠に不便なのであります、ですからこの樣な地勢の上に經營された鎌倉の樣な都市が相當の美觀を具ふるに至る迄には長い歲月を要するのであります。然しながら鎌倉の周圍の丘陵の間の地域は決して狹小ではありませんので、若しも數代引續いて都市の經營を致されたならば立派な封建的市街が建設せらるるに至つたかも知れないのであります、即周圍の丘陵に建設された社寺とか、佛像とか、又武家邸の遺跡或は今も殘つて居る小字の町名などに就いて考へて見るのに鎌倉は舊日本の都市の一つとして、最も立派なものの一つであつた事が想像せられるのであります、即町の中央に鶴岡八幡宮がありまして其社前から海に向つて一條の道路が通じて居ります、所謂若宮大路でありまして武家邸商賈など櫛比して其昔繁昌した事が推知せられます、特に八幡社前から起つて廣く且坦々たる松並木道の中央の左右は、土石で盛り上げ、これで通路と分つた事などは道路の歷史上注意すべき經營であります。この鎌倉を平安京に比較しますれば、若宮大路は朱雀大路に、八幡宮は大内裡に相當するのであります、又鎌倉の周圍は、平安京の周圍の地勢が四神相應して居るといふことに似て居ります。即滑川は左青龍に、由井ガ濱は前朱雀に、北の天台山、太平山、鷲峰山、勝上ガ岳などは後玄武に當つて居ります。

八幡宮について申上げますことは、この宮は源氏の祖清和天皇の御尊崇あらせらた神で代々源氏の神でありました、それで賴朝公は自分は宮の東側に居を

占めて中央の正面にこれを祭り以て鎌倉武士の精神的團結を作つたのであります、頼朝公が幕府を此の地に開いたのは一つはここに理由があつたのであります。

現今の町は十三の大字に分れて居ります、往時目貫の場所として貨物集散の中心であつたのは長谷、材木産、坂の下、八幡前通り等で、今も鎌倉に於て稍市街といふべき地であります、八幡宮を始め頼朝公の館は雪の下と申す處にありまして、此の周圍は山の手と稱すべき方面で其群臣に賜つた邸宅の地でありますので、大厦高樓駢列した當時にありましては甲冑に身を固め或は烏帽子直垂嚴めしき武將の往來した地でありましたでしようが興亡はすべて夢の如く七百年の星霜は流れ去つて、今は麥秀でゝ漸々たるあたりに僅かに民家の斷續するばかり、只若宮大宮の松風には昔ながらの音がかよつて居ります、

次に國民の中樞は江戸に移りました。

江戸は關東平野の一角にありまして、四邊には山といふものはなく、只遙かに富士を仰ぎ筑波をのぞむだけであります、地は一般に平かではあるが少しの小高低がないといふわけではありません、概して言へば西部の一半は高燥な岡地で、東、東北の一半は多濕なる平衍地であります、この江戸は古く中世に至るまでは空しく邊境の荒磯として、また荒寥なる海濱の一漁村として全く世人の注視外に置かれた處でありました、其名の起元について考へて見れば江戸は入江の口であるといふことであります、か樣な有樣で江戸は其地域さへ明白でない程で始めから大方針に基いて都市として經營せられたものではありません、町としての形を具へてまゐりましたのは長祿元年に太田道灌の江戸城を建設してからでありまして、其後上杉、北條の二氏に屬し、天正十八年德川氏の領となりました、然し當時は極めて小規模のもので東方は一面の入江で葦沼が多く乾いた地は誠に少く、西南は茫々たる萱原ではるかに武藏野に續き北方には沼地が接續して居たのでありました、今の常盤橋外日本橋邊は入海で、洲崎といひ其附近は一面沼地であつたのを、慶長八年神田山を鑿つて此の入江の東南芝口の入海迄を埋めて、陸地として、此處に市廛を開くに至つたのであります、此の後元



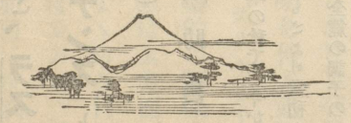
祿から文政頃にかけて埋立工事を起し地域は次第に廣くなつてまゐりまして、靈岸島とか築地等と發達して行く樣になりました、それは諸國の大名が入府するものが多く、年々市街が繁昌する樣になつた爲めであります、本所、深川、小松川の方面ももとは海であつたのが、埋立して街となつたものであります、其上山の手の西北の方に向つては荊棘を拓いて大名屋敷及其附近に商賈の市廛が延びてまゐりました、江戸の街衢は阿彌陀割とか申した程で實にこみ入つたものでありましたが、明治になつてから、二、四、六年と市區改正が行はれて、大きな大名屋敷が開かれて、市廛となるにつれて、市街と市街との間に縱横貫通の交通の便宜を得て漸次市街の連絡がついて稍都市としての統一した体裁を具ふる樣になりました、が既に形態を有する上の改正でありますから大名屋敷が開かれ、西北の林叢が開かれて漸次近郊が宅地となり、又其上明治十九年には中洲二十一年に洲崎、二十四年に月島、廿九年に佃島等と埋立地が出來ましたので八百八町の昔でさへも紛糾極りなかつた江戸の町は二千に垂んとする市街を含める東京市となつたのですからいよ〳〵錯雜なものとなつたのであります、か樣な基礎の上に近世的都市の設備たる道路、電燈、電話、市街鉄道、中央停車場、水道、下水工事なども經營しなければなりませんので市街の變化は實に甚だしく、到底歐洲大陸の諸都が最近五十年間に其面目を一新した樣に我が首府の經營を進捗せしむるは困難な事ではありますが、追々市區改正などによつて歐洲の近世的都市に倣ひつゝありますのでだん〳〵面目を收めて參りました、第一街路も五等に分たれまして、二重橋、鍛冶橋間、日比谷、大手門、吳服橋間などは一等道路の立派なものになりましたし、新橋停車場から萬世橋間はこれに次ぐもので最も整つて居りますのは、銀座通、大學前通りなどでありまして、人道、車道、電車道などの區別も明かであります、次に昔は寂寞たる邸町であつた日比谷の地も明治になりましてからは漸次宮城を中心として、諸官衙、劇場、公園、等が集中して近世都市に於ける中心點となりつゝある狀況にあるのであります、更に中央停車場が開かれることになつて居りますから早晩はすべての交通線路は

此處に集中せらるゝ事になるのでせう、電車線路を見ましても、例へば外濠線は丸の内を中心として、圓周狀に走り、略之と平行して市の外部を一周して居る山の手線との間には、幾條かの、之に並行の線路と之等並行線に交る射狀線路とが、次第に發達整頓して參りました、從つて市街はこの線に沿つてこの中心から圓周狀又は多角形狀に整頓せられつゝあるのであります、又市外の部を見まするに、「井の頭」「御殿山」兩御領地の御下賜になりました地には郊外公園設置の企畫中であるとか之やがて歐米の近世都市の外圍に設けらるゝガーデンシチーの一部をなすものではないかと思はれます、實に只今の東京市は大なる變動の過渡の時期にあるもので、或意味に於て今し改造の最中であります、三百年の由緒ある古い歷史を持つて居る都會だけに、根本から作り替は出來ぬにしても、部分〳〵から建てなほしもし、繕ひもし、取除けもして刻一刻と面目を改めて行くのであります。

以上本邦の人文史的區分にしたがひました都市の格式の大体を申上げました、結論として都市の形式にはどんなものがあるかといふことを、大略述べましてこの話を終りたいと思ひます。

前にも述べました樣に、都市の形式は、自然地理的。人文地理的の影響によつていろ〳〵になりますが、大体から三つに分たれます、其一つが直線形式であります。凡そ人類土着の初めにありましては、人家は處々に散在して居つたものが、おひ〳〵其間に交通が起り、道路が開け、進んでは其道路に沿つて家屋が出來る樣になり、こゝに初めてこの形式の街が、成立ちます。第二には井字形式といふがあります、東洋に於ける町の形式は多くはこれでありまして、其井字形の整齊たるを以て美觀と考へられたのであります、日本の例で申しますれば、前に述べました奈良以前の都市も、奈良及此の形式の最も完成したと稱せられます京都の形式、若くはこの形式の完成せられなかつた鎌倉、江戸等の封建時代の城下街はすべてこの形式に屬するものでありまして、これは中央に大路を開いてシンメリカルに左右に街路を整齊たらしむる形式でございます、この形式は實際的方面から見れば面積を廣く占むる缺點があります、



又美的形式としても餘り發達したものではありません。第三には環周形式といふのがあります、之は歐洲大陸で最も好まれる形式で、都市の中心を置いて、それから波動狀に圓周を描いて擴張する形式であります、歐米の都市はこの形式を取るものか多くあります。以上三つの形式がありますが、都市の行政に實際的便利で、都市としての美觀を保ち得るものはこの三つを融合したもので、これは最も巧妙な形式で又最も進步した近世的都市の形式と言はれて居ります、ウイン、ミラン、ブダペスト等の形式はこの理想に最も近い市街であると稱せられて居ります。

それで都市の中央は都市全体に對して頗る重要な位置でありますから、理想的形式を具へて居る都市の多くは停車場を其中心に設けることになつて居ります、そして停車場の附近は美術的市街とするのが、常であります、又この中心點はすべての街區の大通りが集中してこゝから放射狀に都市の兩端に縱横に貫通する樣になつて居ります、又かゝる市街の外苑は概ねガーデンシイチーとなつて、此處に公園や運動場やいろいろの設備がなされ都市の衛生の爲からも美觀の上からも立派な形式であるといふことになつて居ります。か樣に三つの形式を調和させて都市生活を充實させて行くといふことは都市經營の理想でありますので、從來外國文化の長を取り短を捨て、融合の才に長じたる日本人は獨り我民族ばかりでなく東洋の特色であつた井字形式に他のものを次第に調和させつゝあるのでありまして、東京の如きは一步理想的近世都市の形式に近づいて來たのであります。